

2 モデル事業実施市の取組

(6) 半田市（認知症対応モデル）

1 半田市の特徴（平成 29 年 4 月 1 日現在）

- 人口 : 118,960 人
- 高齢者人口 : 27,898 人
- 高齢化率 : 23.45%
- 地域の特性・課題（モデル地区：半田中学校区）
人口規模が大きく、旧市街と中心市街地（新市街）を合わせ持つ圏域で、高齢化率も他地区より高く、要介護認定率も圏域内でも差がある。また、事業所・地域交流拠点等、社会資源も豊富な地域である。



2 3年間の取組

(1) 関係機関のネットワーク化

① 主な取組

・「地域包括ケアシステム推進協議会」の開催

- ・地域包括ケアシステムの構築に向けた課題に対して、その解決手段を検討するために多職種による協議会を開催した。

▶メンバー

半田市医師会・半田歯科医師会・知多薬剤師会・市立病院・訪問看護・居宅介護事業所・地域包括支援センター・地域住民代表者・民間事業者代表・行政等



②成果

- ・医療・介護の多職種の代表者で構成する地域包括ケアシステム推進協議会が発足し、地域包括ケアシステムに関して検討・合意形成・推進をする上で中核的な存在である協議体ができ、地域包括ケアシステム推進協議会を中心に、テーマ毎の新規の協議体も発足し、既存の協議体と合せて地域ケア会議として役割を整理し、課題抽出から政策形成に繋ぐしくみができた。

③課題

- ・複数の協議体があるため、委員が重複し、それぞれの負担が大きくなっており、協議体の統廃合などが今後、必要である。

(2) 医療と介護の連携

①主な取組

・「在宅医療・介護連携部会」の開催

医療・介護を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で人生の最後まで暮らし続けることができるよう、在宅医療と介護サービスを一体的に提供する体制を構築するための検討を行った。

▶メンバー

医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護、看護師、ケアマネジャー、地域包括支援センター、行政

・「だし丸くんネット（ICT）」の導入

在宅医療・介護連携部会にて、テンプレート案・運用ルール等の検討を重ね、平成27年11月16日から運用を開始。



・「在宅ケア推進地域連絡協議会」の開催（2か月に1回開催）

▶メンバー

医療・介護に携わる関係者（診療所、病院、歯科、薬局、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、グループホーム、有料老人ホーム、訪問看護、居宅介護支援事業所、デイサービス、ヘルパーなど）、地域包括支援センター、行政
 ※各回約80名が参加



・「終末期の事前指示書」作成などリビングウィルに関わる事業の実施

地域包括ケアシステム推進協議会にリビングウィル部会を設置して検討。

事前指示書の普及啓発のため、講演会の開催（平成26・27年度）やパンフレットの作成（平成26年度）を行った。



②取組上で苦労した点

- ・在宅ICT（だし丸くんネット）導入に関して、医師会を中心にICTシステムに関する体制やルール作りなどに関する多職種での合意形成について。
- ・在宅医療介護連携部会で多職種間での課題の洗い出しと共有、課題解決への対応優先順位決定等の対応調整。
- ・市民への在宅医療と介護、看取りを含めた人生の最終段階における意思決定の重要性に関する普及啓発への取り組みについて。

③成果

- ・在宅ICT（だし丸くんネット）の導入により、特に医師と他職種との連携がよりスムーズになるとともに、より効率的・効果的な在宅医療サービスが提供できるようになった。
- ・在宅ケア推進地域連絡協議会の開催により、多職種顔の見える関係を築くとともに、多職種の情報提供、意見交換、ネットワーク形成、研修の場として、有効に機能している。
- ・「私の事前指示書」（半田市版の事前指示書）の普及啓発を通じて、市民の方々に事前指示の意義が浸透してきた。

④課題

- ・在宅ICT（だし丸くんネット）の利用拡大
- ・在宅医療と介護の目指す姿のゴール設定。それに向けて必要な取組設計。
- ・在宅医療介護に関する市民への理解促進。事前指示をはじめとする、自己決定の必要性への普及啓発。さらに、それに取り組む市民の増加

（3）予防の取組

①主な取組

- ・「コグニサイズ教室」の開催（協力：国立長寿医療研究センター）
コグニサイズ教室の開催に向けて、平成27年度にボランティア（半田市健康づくりリーダー、介護予防リーダー）の育成を実施し、平成28年度に教室を開催した。（24回、各回17名参加）



②取組上で苦労した点

- ・健康づくりリーダーへの理解協力要請。コグニサイズ教室開催にむけてのカリキュラム作り。

③成果

- ・ボランティア（半田市健康づくりリーダー、介護予防リーダー）がコグニサイズに関する知識や技術を学んだことで、市の主催する教室以外のボランティア自身が活動するフィールド等でコグニサイズを普及している。

④課題

- ・地域におけるコグニサイズ実施ができる通い場の増設について、行政主体の教室運営から、地域ボランティア主体の取り組みへ移行したい。

（４）生活支援の取組

①主な取組

・「在宅生活支援部会」の開催

様々な立場の委員に参加してもらい、在宅生活が継続できる生活支援サービスの充実のための検討を行った。

▶メンバー

ケアマネジャー、介護事業者、NPO、ボランティア、生活支援コーディネーター、地域包括支援センター、行政（地域福祉課、市民協働課、生涯学習課、高齢介護課）

・「にじいろサポーター・認知症サポーターフォローアップ講座」（生活支援コーディネーター養成講座）の開催

新しい総合事業の生活支援コーディネーターや訪問型・通所型サービスの担い手となる人材の育成を目的とした講座を開催した。



②成果

- ・在宅生活支援部会における検討により、新しい総合事業のサービス内容等の準備、第1層の協議体の開始準備ができた。
- ・生活支援サービスの課題である担い手不足を解消するために、養成講座を開催したところ、受講者の中から自主的に通い場を開始する人や既存の地域の団体に参加するようになった人がいた。

(5) 住まいの取組

① 主な取組

・「高齢者の住まいに関する検討会議」の開催

ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯の増加が見込まれる中、地域生活の最も基本的な基盤である住まいの確保は今後ますます重要となることから、高齢者（特に低所得の要介護者）の住まいに関しての検討を行った。

▶メンバー

ケアマネジャー、地域包括支援センター、行政（建築課、高齢介護課）

② 取組上で苦勞した点

- ・ 公営住宅の入居基準の緩和。
- ・ 高齢者及びケアマネジャーを対象としたアンケート調査の分析。

③ 成果

- ・ アンケートにより現状とニーズ把握を行い、市営住宅居住の独居者の安否確認のための緊急立ち入りを制度化することができた。

④ 課題

- ・ 要介護3未満で低所得の高齢者が入居できる施設や賃貸住宅が少ない。
- ・ 家族や親族との関係が希薄になり身元保証人となる方がいないために、施設や賃貸住宅に入居できない方が増えている。

(6) 認知症の取組

① 主な取組

・「認知症対応検討会議」及びワーキングの開催

▶メンバー

医師、歯科医師、薬剤師、学識経験者、認知症介護指導者、民生委員、居宅介護事業者、NPO法人代表、認知症ネットワーク代表、市民代表（介護家族、地域活動）、民間企業、警察、地域包括支援センター、行政

・ 初期支援・相談ワーキング

→主に認知症初期集中支援チームの設置を検討

・ 家族支援ワーキング

→主に認知症カフェの実施、家族支援プログラム・介護家族交流会を検討

・ 地域支援ワーキング（行方不明対応ワーキング）

→主に行方不明対策、認知症サポーターの活用方法を検討

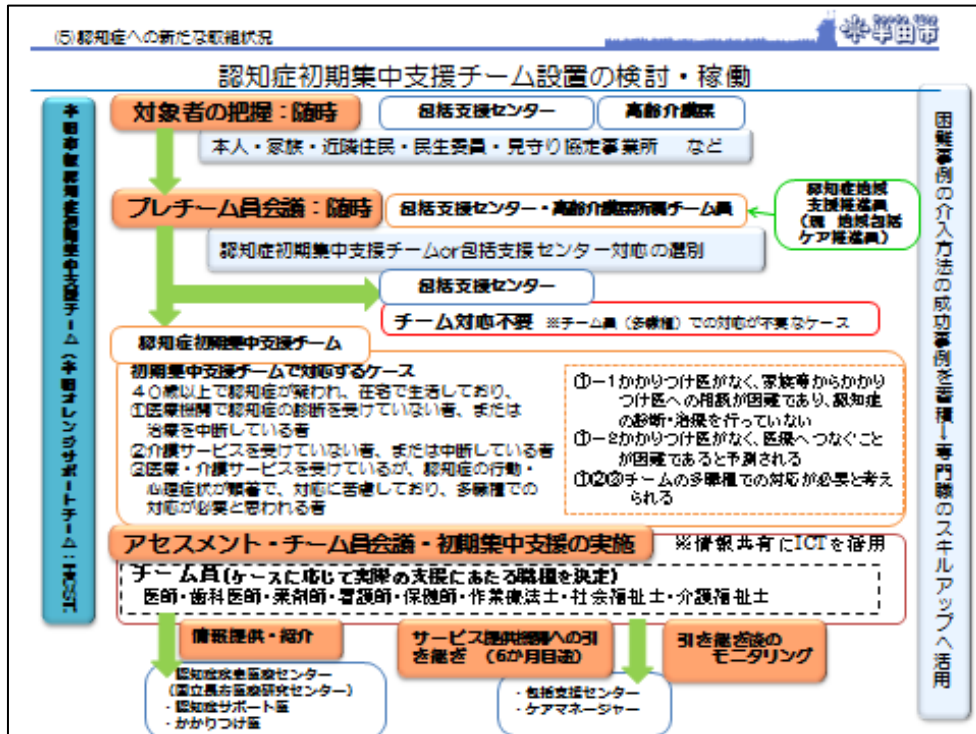
・認知症ケアパス「認知症安心ガイドブック」作成

平成 26 年度：入門編、予防編、支援の流れ編、家族の心構え編、別冊若年性認知症安心ガイドブックの 5 冊を作成。
平成 28 年度：別冊「認知症による行方不明への対応ガイドブック」を追加。



・認知症初期集中支援チーム (HOST : 半田オレンジサポートチーム) の設置

(平成 27 年度)



・「認知症理解促進講演会」の開催

- ▶「認知症になっても自分らしく暮らすまち半田」（平成 26 年 12 月 13 日）

参加者：313 人

第 1 部：講演会「今こそ認知症を正しく理解しよう！」

（講師：国立長寿医療研究センター 遠藤 英俊先生）

第 2 部：パネルディスカッション

パネリスト：認知症支援に関わる地域住民、NPO 等

- ▶「我がまち半田の認知症対策を考える」（平成 27 年 9 月 27 日）

参加者：516 人

主催：半田市、半田市医師会、エーザイ株式会社

第 1 部：特別講演「認知症を正しく理解する」

（講師：国立長寿医療研究センター副院長：鷺見幸彦先生）

第 2 部：パネルディスカッション「半田市の認知症対策を考える」

パネリスト：半田市医師会副会長（医師）、ケアマネジャー
認知症の人と家族の会、地域コミュニティ施設長



・認知症カフェ「プラチナカフェ」の設置

認知症の人や家族、地域住民が集うカフェを設置し、互いに交流を図ることで、認知症の早期発見・早期対応につなげるとともに、地域の認知症に対する理解を促進し、認知症の人や家族が地域で孤立しないように支援した。

平成 27 年度：2 箇所

プラチナカフェりんりん店（運営主体：NPO 法人りんりん）

プラチナカフェかりやど憩の家店

（運営主体：かりやど憩の家管理運営委員会）

平成 28 年度：1 箇所

プラチナカフェみんなの心店（運営主体：医療法人メディライフ）



・認知症高齢者等行方不明者に関する施策の実施

▶行方不明者捜索訓練の実施（平成 27・28 年度）

認知症高齢者等が行方不明となった際に、早期発見・保護につなげる見守り・SOS ネットワークを構築するため、市民や関係団体による捜索訓練を実施した。

▶半田市高齢者見守りメールの配信開始（平成 27 年度）

高齢者が行方不明となった場合に、捜索や情報提供の協力者として、事前に登録していただいた市民等に対し、メールにより情報を一斉配信した。



▶行方不明高齢者捜索機器貸与事業の実施（平成 28 年度）

認知症により行方不明になるおそれのある高齢者等の親族等に対し、行方不明高齢者等捜索機器（発信機・受信機）を貸与する事業を開始した。

貸与機器：SANタグ（発信機）、SANレーダー（受信機）

※半田市内事業者である「加藤電機(株)」が開発。



・ **認知症の方が安心して暮らせるまちづくり連携協定の締結**

認知症に対する理解促進、早期発見・治療への取組みを進め、認知症の方が安心して暮らせる地域づくりの推進に資するため、一般社団法人半田市医師会及びエーザイ株式会社と半田市の三者による連携協定を締結した。

▶協定締結日：平成 27 年 4 月 9 日



②取組上で苦労した点

- ・ 専門職だけでなく、地域住民も巻き込んで、各会議をとおして、様々な事業体制の検討を行い、ひとつずつ事業化につなげたこと。

③成果

- ・ 認知症対策に関して抽出された地域課題を認知症対応検討会議及びワーキングで検討したことで、課題解決のための具体策（認知症ケアパス、認知症カフェ、認知症初期集中支援チームなど）の実施につながった。
- ・ 行方不明者捜索訓練や半田市高齢者見守りメールにより、目撃情報等の提供、捜索に協力していただく体制ができた。また、行方不明発生時の早期発見・保護につながる行方不明高齢者捜索機器貸与事業を開始することができた。
- ・ 認知症の方が安心して暮らせるまちづくり連携協定の締結により、三者共催による認知症理解促進講演会の開催などにつながった。

④課題

- ・ 事業化した各事業の効果検証と見直し、修正。
- ・ 各事業に対する市民、専門職への理解促進を図り、事業促進を図る。

3 3年間の総括

- 地域包括ケアシステム推進協議会を中心とした各種協議会・会議を開催し、三師会をはじめとする専門職のネットワークを形成し、顔の見える関係を構築することができた。
- 在宅ICTシステムの導入、在宅医療介護連携部会での協議などにより医療介護連携が促進した。
- 医療職・介護職相互の知識を学ぶ研修の実施により、専門職のスキルアップが図られた。
- 特に予防・生活支援の分野についてさらに市民を巻き込み、サービスの充実、担い手自身の介護予防など、今後、さらに推進する必要がある。
- 各種協議会・会議の委員が重複し、一部の委員に大きな負担が生じていることから、推進体制の見直しや整理が必要である。

半田市のモデル事業3年間の取組一覧

分野	項目	実績		
		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
関係機関のネットワーク化	関係機関連絡会議の開催	<p>●「地域包括ケアシステム推進協議会」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催:年 12 回 地域包括ケアシステム構築に関する様々な内容を協議会に集約し、各職種を代表した委員により基本方針等を確認した。 26 年度は、「リビングウィル部会(開催:年 10 回)」、「身元保証部会(開催:年 8 回)」を設置して、具体的な課題解決の取組みを行った。 	<p>●「地域包括ケアシステム推進協議会」の開催</p> <p>地域包括ケアシステム構築へ向けた進行管理及び地域ケア会議等から抽出された課題に対して、その解決手段を検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催 年 7 回 ・参加者 半田市医師会・半田歯科医師会・知多薬剤師会・市立病院・訪問看護・居宅介護事業所・地域包括支援センター・地域住民代表者・民間事業者代表・行政等 	<p>●「地域包括ケアシステム推進協議会」の開催</p> <p>地域包括ケアシステム構築へ向けた進行管理及び地域ケア会議等から抽出された課題に対して、その解決手段を検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催 年 6 回 ・参加者 半田市医師会・半田歯科医師会・知多薬剤師会・市立病院・訪問看護・居宅介護事業所・地域包括支援センター・地域住民代表者・民間事業者代表・行政等
	社会資源、住民ニーズの把握	<p>●地域の社会資源を認知症ケアパスとして取りまとめた。</p>	<p>●高齢者くらしの便利帳</p> <p>自動車などの交通手段が無く、日常の買い物に不便を感じている高齢者を支援するため、宅配サービスなどを実施している事業者の情報を集約し、「高齢者くらしの便利帳」を作成した。</p>	<p>●亀崎地区及び半田地区において「介護予防・生活支援協議会」を立ち上げた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催 2 圏域各 1 回/年 ※他の 3 圏域(乙川、成岩、青山)は、平成 29 年度に立ち上げ済み。
医療と介護の連携	在宅医療・介護連携会議の開催	<p>●「在宅ケア推進地域連絡協議会」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催:6 回/年 医療・介護連携に係る情報提供や意見交換を行うとともに、多職種連携・在宅医療・介護に関する研修としても実施。 ○第 1 回テーマ 診療報酬改定と在宅ケアに対する影響について ○第 2 回テーマ 平成 30 年度までに整えておくこと(円卓会議) ○第 3 回テーマ ICTの活用について ○第 4 回テーマ 認知症BPSDの基礎知識と対応 ○第 5 回テーマ 認知症ケアパスの内容と活用 ○第 6 回テーマ インフォーマルサービスの活用 	<p>●在宅医療・介護サービスの提供体制の検討</p> <p>「在宅医療・介護連携部会」の開催</p> <p>在宅医療と介護サービスを一体的に提供する体制整備を図るため、連携ツールの集約や在宅医療・介護連携の相談窓口機能の検討を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催:年 11 回 ・参加者: 半田市医師会・半田歯科医師会・知多薬剤師会・市立病院・訪問看護・居宅介護事業所・地域包括支援センター・行政等 <p>●「在宅ケア推進地域連絡協議会」を活用し、地域医療体制の構築に向けた課題抽出及び必要な取組を検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催:年 6 回 ・参加者:地域包括ケアシステムに関わる関係者(各回 75 名程度出席) 	<p>●在宅医療・介護サービスの提供体制の検討</p> <p>「在宅医療・介護連携部会」の開催</p> <p>在宅医療と介護サービスを一体的に提供する体制整備を図るため、連携ツールの集約や在宅医療・介護連携の相談窓口機能の検討を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催:年 6 回 ・参加者: 半田市医師会・半田歯科医師会・知多薬剤師会・市立病院・訪問看護・居宅介護事業所・地域包括支援センター・行政等 <p>●「在宅ケア推進地域連絡協議会」を活用し、地域医療体制の構築に向けた課題抽出及び必要な取組を検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催:年 6 回 ・参加者:地域包括ケアシステムに関わる関係者(各回 75 名程度出席)

半田市のモデル事業3年間の取組一覧

分野	項目	実績		
		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
ICT システムの活用	ICT システムの活用	<ul style="list-style-type: none"> ●ICTシステムの検討 半田市医師会Dr.WebITシステム委員会、地域包括ケアシステム推進協議会、在宅ケア推進地域連絡協議会において、平成27年度中の導入へ向け、ICTシステムの検討を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●半田市在宅医療連携システム(だし丸くんネット)稼働 日時:平成27年11月16日(月)から運用開始 ICTシステムの稼働により、iPadを用いて、診療所、かかりつけ薬局、訪問看護ステーション、ケアマネジャーなど医療と介護の専門職間で患者情報を共有することができるようになった。 「在宅医療・介護連携部会」において、ICTテンプレート案、運用ルール等について検討を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「だし丸くんネット」(ICT)を活用し、多職種による患者情報の共有を推進した。認知症初期集中支援チームの活動においてもICTを活用し、連携強化を図った。
	在宅医療等に従事する多職種の研修	<ul style="list-style-type: none"> ●「事例検討会」や「在宅ケア推進地域連絡協議会」、「リビングウィル普及啓発講演会」等で実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ●第4回半田市在宅ケア推進地域連絡協議会 ・開催:平成27年11月24日(火) ・参加者:地域包括ケアシステムに関わる関係者(72名) 内容:「多職種で考えるケアの質」～ミニ事例検討会を通して～ 事例1「高齢者夫婦の健康維持への支援」 事例2「医療ニーズが高い方への連携」 事例3「サービス利用に繋がらない認知症の方の支援」 上記事例について円卓会議方式で検討を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「在宅ケア推進地域連絡協議会」において、多職種で在宅医療に関する事例検討を行った。 ・開催:平成28年7月26日(火) ・内容:事例1「通所施設利用者の半固形栄養剤の利用」 事例2「ターミナル期の独居利用者を在宅でどう支えるか」
	在宅医療等の普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ●リビングウィル普及啓発講演会の開催 「終活！あなたは最期に何をのぞみますか？～終末期の意思表示を考える～」 ・講師:箕岡真子氏 ・参加者:地域住民、医療・介護の関係者 600名 ●リビングウィル普及啓発パンフレット作成 講演会チラシの裏面を活用して、10,000部を印刷して啓発を行った。 ●市報掲載 8月1日号市報へ見開き2ページで特集記事として「人生最後に受ける医療を考える」を掲載。 	<ul style="list-style-type: none"> ●在宅医療と地域包括ケアをテーマにした講演会の実施 講演会名:「認知症理解促進講演会～わがまち半田の認知症対策を考える～」 ・開催:平成27年9月27日(日) ・参加者:地域住民及び地域包括ケアシステムに関わる関係者(516名) 場所:雁宿ホール 内容:第1部 認知症を正しく理解する 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター副院長 鷲見幸彦氏 第2部 パネルディスカッション ●地域包括ケアシステムの普及啓発 毎月1日号市報に医療・介護・認知症等のテーマごとにコラム(1ページ)を掲載し、地域住民へ地域包括ケアシステムの普及啓発を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●在宅医療と地域包括ケアをテーマにした講演会の実施 講演会名:「住み慣れた家で最後まで～自宅での看取りを考える～」 ・開催:平成28年12月11日(日) ・参加者:地域住民及び地域包括ケアシステムに関わる関係者(343名) 場所:アイプラザ半田 講堂 内容:第1部 基調講演「人生、最後にあたって何を望まれますかー命の終末を支える背景と取り組みー」 講師:堀尾医院 堀尾静氏 第2部 シンポジウム「自宅で看取るということ」 ●地域包括ケアシステムの普及啓発 毎月1日号市報に医療・介護・認知症等のテーマごとにコラム(1ページ)を掲載し、地域住民へ地域包括ケアシステムの普及啓発を実施した。

半田市のモデル事業3年間の取組一覧

分野	項目	実績		
		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
	その他	<p>●医療・介護の情報共有はICTシステム等他の連携ツールを活用する方向性となった。</p>	<p>●平成 27 年 7 月、「半田市医師会在宅医療サポートセンター、中核センター」を開設。</p> <p>●事前意思カードの普及 「第 1 回半田市在宅ケア推進地域連絡協議会」にてリビングウィルの普及啓発を含めて意思表示カードの周知を図った。 ・開催：平成 27 年 5 月 26 日(火)</p>	<p>●「半田市医師会在宅医療サポートセンター、中核センター」の設置により、在宅患者が住み慣れた地域で質の高い医療サービスを安心して受けられるよう、地域の需要や実態にあった在宅医療を提供する体制の充実・強化を図ることができた。</p>
予防の取組	予防の取組	<p>●「要支援の介護サービス分析」の実施 新しい総合事業の実施へ向け、現行の予防給付の利用実態の把握を目的に、要支援者のケアプランを作成しているケアマネジャーにアンケート調査を地域包括支援センターが実施。</p>	<p>●「地域介護予防教室事業」の開催 やなべコミュニティ推進協議会に委託し、地域特性を生かした介護予防(新美南吉作品の音読、新美南吉記念館への遠足など)を実施した。 ・開催：毎週木曜日 10:30～11:30</p> <p>●基本チェックリストから抽出された二次予防対象者や介護認定非該当者で運動機能の低下している方に対して、地域包括支援センターと連携し、柔道整復師(民間病院)による運動器フォローアップ教室(3か月間)への勧奨を行った。教室終了後は、地域の健康づくりリーダーが自主グループを立ち上げ、地域住民を交えての健康づくりの場ができた。 ・開催場所：地域ふれあい施設「さくらの家」</p>	<p>●「地域介護予防教室事業」の開催 認知症予防教室修了者が、教室終了後に集い、それぞれが役割を持ちながら、ボランティア・コミュニティの協力を得ながら、活動を継続するために支援を行う。 ※岩滑コミュニティ推進協議会に委託。</p> <p>・開催：月 4 回以上、1 回あたり 1 時間程度 ・参加者：10 名程度 ・会場：岩滑ふれあいセンター ・内容：交流・見守り、認知症予防などを考慮した介護予防教室</p> <p>●「コグニサイズ教室」の開催 ・開催：平成 28 年 6 月 14 日～11 月 22 日(全 24 回) ・場所：かりやど憩の家 ・参加者：20 名程度</p>

半田市のモデル事業3年間の取組一覧

分野	項目	実績		
		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
生活支援 の取組	生活支援の 取組	<ul style="list-style-type: none"> ●地域包括ケアシステム推進協議会において、新しい総合事業の実施や必要な生活支援サービスについて検討し、平成 27 年度より協議会に在宅生活支援部会を設置することとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「在宅生活支援部会」の開催 <ul style="list-style-type: none"> 多様な生活支援サービス・介護予防の提供に向け、新しい総合事業の制度理解やサービス内容の検討を行った。 ・開催 年 9 回 ・参加者 <ul style="list-style-type: none"> 居宅介護事業者、ボランティア・NPO代表、シルバー人材センター、まちづくりひろば、地域包括支援センター、行政等 ●生活支援に必要な人材育成 <ul style="list-style-type: none"> ボランティア・市民活動の窓口である「まちづくりひろば(ボランティアセンター)」と連携し、生活支援コーディネーターや生活支援の担い手育成等の人材育成プログラムを盛り込んだ「にじいろサポーター・認知症サポーターフォローアップ講座(生活支援コーディネーター養成講座)」を開催した。 ・開催: 全 4 回講座 ・参加者: にじいろサポーター及び認知症サポーター(30 名) 	<ul style="list-style-type: none"> ●「在宅生活支援部会」の開催 <ul style="list-style-type: none"> 多様な生活支援サービス・介護予防の提供に向け、新しい総合事業の制度理解やサービス内容の検討を行った。 ・開催 年 6 回 ・参加者 <ul style="list-style-type: none"> 居宅介護事業者、ボランティア・NPO代表、シルバー人材センター、まちづくりひろば、地域包括支援センター、行政等 ●新聞店や金融機関など 33 事業所(平成 29 年 3 月末現在)と「半田市地域見守り活動に関する協定」を締結し、孤立死の防止や認知症等による行方不明などの早期発見・対応できる体制づくりを図っている。
住まいの取組	住まいの取組	<ul style="list-style-type: none"> ●「住まいの確保に関するニーズ調査」の実施 ●対象: 要支援・要介護認定者のうち、介護保険所得段階第 3 段階以下の 1,615 人 ●調査方法: 対象者への郵送、無記名調査 ●有効回答数: 706 件(回収率 43.7%) 	<ul style="list-style-type: none"> ●「高齢者の住まいに関する検討会議」を開催し、高齢者(特に低所得の要介護者)の住まいに関して、検討を行った。 ・開催: 年 2 回 ・参加者: 半田市包括支援センター、ケアマネジャー、建築課、高齢介護課 	<ul style="list-style-type: none"> ●「高齢者の住まいに関する検討会議」を開催し、高齢者(特に低所得の要介護者)の住まいに関して、検討を行った。 ・開催: 年 3 回 ・参加者: 半田市包括支援センター、ケアマネジャー、建築課、高齢介護課 ●市営住宅居住の独居者の安否確認のための緊急立ち入りを制度化することができた。

半田市のモデル事業3年間の取組一覧

分野	項目	実績		
		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
認知症の取組		<p>●「認知症対応検討会議」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催:年 4 回 <p>認知症ケアパスの作成を通して、様々な立場の方とともに、認知症支援の現状を把握し、社会資源を整理することができ、また、半田市の課題と必要な認知症支援を抽出することができた。</p> <p>また、作業部会(年 4 回)を設置して具体的な作業を進めた。</p>	<p>●「認知症対応検討会議」を設置し、認知症初期集中支援チームの設置、認知症カフェの運営、メール配信システムの導入、認知症徘徊者捜索模擬訓練等、必要な取組の検討・実施した。</p> <p>「初期支援・相談ワーキング」、「家族支援ワーキング」、「地域支援ワーキング」の 3 つのワーキンググループを設置し、各事業の検討・実施・評価を行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催 認知症対応検討会議:年 4 回 初期支援・相談ワーキング:年 5 回 家族支援ワーキング:年 3 回 地域支援ワーキング:年 3 回 ・参加者 認知症支援に関わる保健・福祉・医療の関係者及び認知症専門家 	<p>●「認知症対応検討会議」を設置し、認知症カフェの運営基準、認知症徘徊者捜索模擬訓練等、必要な取組の検討・実施した。</p> <p>「家族支援ワーキング」、「行方不明者対応ワーキング」を設置し、各事業の検討・実施・評価を行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催 認知症対応検討会議:年 4 回 家族支援ワーキング:年 1 回 行方不明者対応ワーキング:年 3 回 ・参加者 認知症支援に関わる保健・福祉・医療の関係者及び認知症専門家
認知症の取組		<p>●「認知症ケアパス研修会」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催:年 1 回 ・参加者:認知症対応検討会議、地域包括ケアシステム推進協議会メンバー等 25 名 <p>認知症ケアパスの共通理解とともに、初期支援の社会資源が不足している等、半田市の認知症支援の課題を抽出することができた。</p> <p>●認知症理解促進講演会の開催</p> <p>「認知症になっても自分らしく暮らすまち半田～認知症サポーターの輪を広げよう～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催:年 1 回 ・講師:遠藤英俊氏 ・参加者:地域住民、医療介護の関係者等 313 名 <p>●若年性認知症の理解促進</p> <p>若年性認知症の啓発のため、啓発チラシを作成。</p>	<p>●「認知症対応検討会議地域支援ワーキング」を活用して、認知症高齢者の地域での見守り体制について、課題の抽出、解決策の検討を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催:年 3 回 ・参加者 認知症対応検討会議地域支援ワーキングメンバー及び徘徊・見守りネットワークの関係者 <p>●認知症徘徊・見守りネットワークの構築へ向け、「半田市高齢者見守りメール」を導入した。、ネットワークの啓発及び登録案内チラシを作成した。(5,000 部)</p> <p>配布先:地域住民、民間企業等ネットワーク関係者</p>	<p>●高齢者の方が行方不明となった場合に、「半田市高齢者見守りメール」にて登録者にメールを配信することにより、捜索や情報提供の協力を依頼できる体制を整えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録者数:約 800 名 ・配信件数:21 件 <p>●行方不明の対応ガイドブックの作成</p> <p>③行方不明者捜索訓練の実施(平成 28 年 12 月)</p> <p>④認知症高齢者行方不明捜索機器貸与事業の実施(平成 29 年 1 月～)</p>

半田市のモデル事業3年間の取組一覧

分野	項目	実績		
		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
認知症の取組		<p>●「認知症高齢者実態把握アンケート調査」の実施</p> <p>・対象:介護認定のない65歳以上の高齢者 22,014人 認知機能障がい程度の指標として有効とされるCPSを、65歳以上の高齢者を対象としている日常生活基本チェックリストと併せて実施。</p> <p>また、把握した認知機能障がいの傾向が見られる方の訪問調査をほうかつ地域包括支援センターが実施。</p>	<p>●認知症初期集中支援チームが(半田オレンジサポートチーム※通称:HOST)が始動した。</p> <p>●第2回半田市在宅ケア推進地域連絡協議会</p> <p>・開催:平成27年7月28日(火)</p> <p>・参加者:地域包括ケアシステムに関わる関係者(76名)</p> <p>内容:1.講演「認知症対策の方向性と地域連携の在り方」 講師:鷺見 幸彦 医師(国立長寿医療研究センター 副院長) 2.「認知症安心ガイドブック(認知症ケアパス)」の活用方法 担当:高齢介護課 保健師</p> <p>●「プラチナカフェ」(半田市版認知症カフェ)の設置</p> <p>・設置数:2か所</p> <p>▶プラチナカフェりんりん店 (運営:NPO法人りんりん) 毎週火曜日 10:00~12:00</p> <p>▶プラチナカフェかりやど憩の家店 (運営:かりやど憩の家管理運営委員会) 第2・4土曜日 12:00~16:00</p> <p>●認知症家族支援プログラム</p> <p>認知症の人を抱える家族介護者が自身の問題解決能力を高めることにより、介護負担を軽減させ、知識不足によるトラブルを防止し、早期に認知症の人と安定した生活が営めるよう支援した。</p>	<p>●認知症と思われる方が適切な医療や介護保険のサービスにつながらない場合に、認知症初期集中支援チーム(半田オレンジサポートチーム※通称:HOST)がその方に合ったサポート方法を検討し、支援体制を整えている。</p> <p>・チーム会議の開催 月1回</p> <p>●「プラチナカフェ」の設置</p> <p>・設置数:3か所</p> <p>▶プラチナカフェりんりん店 ▶プラチナカフェかりやど憩の家店 ▶プラチナカフェみんなの心店(平成28年度~)</p> <p>●認知症家族支援プログラム</p> <p>認知症の人を抱える家族介護者が自身の問題解決能力を高めることにより、介護負担を軽減させ、知識不足によるトラブルを防止し、早期に認知症の人と安定した生活が営めるように支援した。</p>

半田市のモデル事業3年間の取組一覧

分野	項目	実績		
		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
			<p>●認知症サポーターフォローアップ講座を開催し、認知症予防や対応スキルの向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催：年4講座 ▶予防編(79名) <p>〔認知症予防と回想法～聴かせてくださいあなたの思い出～〕 講師：日本福祉大学 健康科学部 来島 修志先生</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ガイドブック活用編(99名) <p>「認知症安心ガイドブック」活用講座 講師：高齢介護課 保健師</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶対応実践編(88名) <p>認知症高齢者等が行方不明となった際に、早期発見・保護できるよう、認知症サポーターの行方不明に関する理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶コグニサイズ編(58名) <p>(1)講義「コグニサイズとは」 ・講師：高齢介護課保健師</p> <p>(2)体験実習 ・指導者：半田市健康づくり連絡協議会所属健康づくりリーダー</p>	<p>●認知症サポーターフォローアップ講座(対応実践編)を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催：平成 28 年 6 月 23 日(木) (乙川交流センターニコパル)、平成 28 年 8 月 2 日(板山公民館) ・内容：地域で認知症の方を見かけた際に、どのような点を意識して対応するとよいかを学ぶ。